

登山月報

JMSCA 登山月報 第679号 令和7年10月15日発行



「大山南壁」 撮影：渡部 悟



No.679

ユース日本代表関連 活動報告

- ・IFSC 世界ユース選手権ヘルシンキ 2025 報告 2
- ・IFSC クライミングユースアジア選手権(貴陽) 2025 報告 4

ユース育成強化関連 活動報告

- ・第5回 ボルダーフューチャーカップ鉾田(BFC2025) 報告 6

寄贈図書 6

Enjoy Climbing..... 7

映画紹介 8

山形県山岳連盟自然保護委員会のSDGsな活動 9

第22回 山岳遭難事故調査報告書 その2 10

JMSCA、表紙のことば 12

IFSC世界ユース選手権 ヘルシンキ2025 報告

2025年7月28日から8月3日にかけて、フィンランド・ヘルシンキにてIFSCクライミングユース世界選手権2025が開催されました。本大会は、年齢カテゴリー制度の見直しにより、『U17(15～16歳)』『U19(17～18歳)』の2区分で実施された初の大会であり、リード・ボルダー・スピードの3種目で、世界各国のユース選手が競い合いました。

日本チームは、金メダル5個、銀メダル2個、銅メダル5個の計12個のメダルを獲得し、今年も国別ランキングにおいて1位を収めることができました。

今回は、例年に比べて初出場の選手が多く選出された大会でもありましたが、国際経験を持つ選手たちが、落ち着いた姿勢や雰囲気ですぐに自然とチームを支え、チーム全体の雰囲気づくりに大きく貢献してくれました。個々の実力に加え、チームとしての連携や一体感が、この成績に繋がったと感じています。

各種目において、選手たちはそれぞれの持ち味を発揮し、最後まで全力で競技に向き合ってくれました。3種目を通して、選手たちのさらなる伸びしろを感じることができた大会となりました。

優勝選手からの大会コメント

◆村越 佳歩 (U19女子ボルダー優勝)

最後の最後まで優勝できるか分らなかったのですが、優勝が決まった時は驚きや嬉しさなど色々な感情が込み上げてきました。最高の形で締められてよかったです！

今後は、もっと強くなってジャパンカップやワールドカップで表彰台に立つことが目標です。

◆山田 航大 (U19男子ボルダー優勝)

絶対に優勝すると決めていたので、実際に決め切って優勝したときはうれしさと、緊張から解放されて涙が止まりませんでした。今後の目標は、ユースが終わって、舞台はシニアに完全に切り替わったので、まずはBJT、BJCやその先に向けてさらに登りに磨きをかけていきたいです。

◆藏敷 慎人 (U19男子リード優勝)

決勝を登り終えた直後は、まだ信じられない気持ち



の方が強く、本当に自分が優勝したのか実感できませんでした。これまで支えてくださった方々への感謝が真っ先に浮かび、この結果を届けられたことをとても嬉しく思います。自分の力を出し切ることができ、そ

ボルダー



ボルダー結果

氏名	ふりがな	所属	順位
男子			
Under 19			
山田 航大	やまだ こうだい	埼玉県山岳・スポーツクライミング協会	1位
藤田 楓	ふじた かえで	鳥取県山岳・スポーツクライミング協会	5位
長森 晴	ながもり はれる	N 高等学校	17位
佐々木 玲偉	ささき れい	福島県山岳・スポーツクライミング連盟	18位
男子			
Under 17			
濱田 琉誠	はまだ りゅうせい	神奈川県山岳連盟	1位
齋木 猛斗	さいき たけと	四日市市立中部中学校	2位
小山 楚嵐	こやま そらん	三重県立上野高等学校	3位
小西 充晃	こにし みつあき	熊本県山岳・スポーツクライミング連盟	24位
女子			
Under 19			
村越 佳歩	むらこし かほ	茨城県山岳連盟	1位
山 真奈実	やま まなみ	三重県山岳・スポーツクライミング連盟	3位
山根 嘉穂	やまね かほ	茨城県山岳連盟	39位
女子			
Under 17			
松浦 朱希	まつうら あかね	東京都山岳連盟	5位
中村 まりん	なかむら まりん	茨城県山岳連盟	7位
齋藤 紗里依	さいとう さりい	栃木県山岳・スポーツクライミング連盟	19位



の成果として優勝につながったことは大きな自信になりました。

応援してくださったすべての方に、心から感謝しています。キートス！

これからの目標としては、世界ユースでの優勝は、ひとつの通過点にすぎないと思っています。これからはさらに力をつけ、シニアの舞台で

も結果を残せる選手を目指します。世界のトップクライマーたちと対等に戦い、トップの一員として名を連ねることが目標です。

同時に、競技の結果だけでなく、人としても成長し、周囲から尊敬されるような存在になれるよう努力していきたいです。クライマーとしても、人間としても胸を張れる自分を目指して、挑戦を続けていきます。

◆濱田 琉誠 (U17男子ボルダー・リード優勝)

去年の世界ユースで2冠できなかったときから、今年は2冠することを目標に練習してきたので、それを達成できて素直に嬉しかったです。特に今年はリードの成長を感じられたので、今年はLJCで決勝に残れるように頑張りたいです！

リード



リード結果

氏名	ふりがな	所属	順位
男子			
Under 19			
藏敷 慎人	くらしき まなと	兵庫県山岳連盟	1位
長森 晴	ながもり はれる	N 高等学校	3位
船木 陽	ふなき はる	栃木県山岳・スポーツクライミング連盟	5位
西尾 洸音	にしお ひろと	兵庫県山岳連盟	6位
男子			
Under 17			
濱田 琉誠	はまだ りゅうせい	神奈川県山岳連盟	1位
仲田 和樹	なかた かずき	神奈川県山岳連盟	2位
齋木 猛斗	さいき たけと	四日市市立中部中学校	9位
女子			
Under 19			
麦島 心花	むぎしま こはな	中部大学春日丘高等学校	4位
小田 菜摘	おだ なつみ	大阪府山岳連盟	6位
柿崎 咲羽	かきざき さわ	東京都山岳連盟	7位
女子			
Under 17			
林 有沙	はやし ありさ	石川県山岳・スポーツクライミング協会	3位
中村 まりん	なかむら まりん	茨城県山岳連盟	7位
村杉 汐里	むらすぎ しおり	千葉県山岳スポーツクライミング協会	9位
堀内 優里	ほりうち ゆり	静岡県山岳・スポーツクライミング連盟	16位

スピード



スピード結果

氏名	ふりがな	所属	順位
男子			
Under 19			
田淵 幹規	たぶち もとのり	上宮高等学校	6位
大西 月華	おおにし つきか	神奈川県山岳連盟	9位
大石 覇	おおいし はく	千葉県山岳・スポーツクライミング協会	15位
男子			
Under 17			
齋藤 蒼太	さいとう そうた	千葉県山岳・スポーツクライミング協会	3位
柏 龍弥	かしわ りゅうや	三重県立久居農林高等学校	16位
青木 智久	あおぎ ともひさ	福岡県山岳・スポーツクライミング連盟	18位
女子			
Under 19			
小屋松 恋	こやまつ れん	横浜隼人高等学校	6位
麦島 心花	むぎしま こはな	中部大学春日丘高等学校	25位
女子			
Under 17			
原 菜都美	はら なつみ	千葉県山岳・スポーツクライミング協会	11位
西村 優杏	にしむら ゆあ	千葉県山岳・スポーツクライミング協会	23位
望月 咲希	もちづき さき	千葉県山岳・スポーツクライミング協会	26位

※順位に黄色ハイライトを入れているのがメダル獲得選手

IFSCクライミングユース アジア選手権(貴陽)2025 報告

2025年8月22日から25日まで、中国・貴陽にてIFSCクライミングユースアジア選手権2025が開催されました。本大会もユース世界選手権と同様に、新カテゴリー（U17・U19）で行われました。

アジア各国における育成の取り組みが年々進むなか、ユース世界選手権でも表彰台に立つアジア選手が増加しており、本大会でも、課題・ルートの強度やクオリティが一層高まり、各国の競技レベルの向上を強く感じる大会となりました。

日本チームは、金メダル6個、銀メダル8個、銅メダル5個の計19個のメダルを獲得し、不参加だった女子U19スピードを除くすべての種目・カテゴリーで表彰台に立つ成果を収め、国別ランキングにおいてもこれまでに続き1位を維持することができました。

特に男子U19リードでは、日本選手が1位から4位までを独占し、他の種目においても、個々の実力はもとより、チーム全体としての層の厚さと安定感を示すことができました。

さらに大会終了後には、アジアカウンシル主催による初の「エクスチェンジ・トレーニングプログラム」が開催され、日本からも選手・スタッフが参加しました。大会に参加したアジア各国の選手・コーチ、あわせて総勢100名以上が一堂に会し、希望に応じてスピードとボルダーのセッションに分かれ、国や種目、性別の枠を越えたグループで、決勝ルートや新しい課題を反復して登りながら、コミュニケーションとトレーニングを通じて互いに楽しみ、学び合い、刺激を受け合う貴重な機会となりました。

優勝選手からの大会コメント

◆山 真奈実 (U19女子ボルダー優勝)

ユースの大会では初めての優勝だったので嬉しかったです。

これからの目標はシニアでも戦える様な選手になって楽しく続ける事です。

◆中村 まりん (U17女子ボルダー・リード優勝)

国際大会で初めての優勝に加えて、ボルダー・リードで二冠できたことが本当に嬉しいです！また、世界ユースで攻めた登りができずに自分の強みが出せな

ボルダー結果

氏名	ふりがな	所属	順位
男子			
Under 19			
長森 晴	ながもり はれる	N 高等学校	2位
通谷 結太	かよたに ゆうた	佐賀県山岳・スポーツクライミング連盟	3位
佐々木 玲偉	ささき れい	福島県山岳・スポーツクライミング連盟	4位
藤田 楓	ふじた かえで	鳥取県山岳・スポーツクライミング協会	5位
男子			
Under 17			
齋木 猛斗	さいき たけと	四日市市立中部中学校	1位
奥畑 成	おくはた なる	奈良県山岳連盟	3位
小山 楚嵐	こやま そらん	三重県立上野高等学校	5位
小西 充晃	こにし みつあき	熊本県山岳・スポーツクライミング連盟	6位
女子			
Under 19			
山 真奈実	やま まなみ	三重県山岳・スポーツクライミング連盟	1位
石黒紗彩	いしくろ さあや	東京都山岳連盟	4位
山根 嘉穂	やまね かほ	茨城県山岳連盟	5位
山田 泉都	やまだ みつ	長野県山岳協会	6位
望月 萌叶	もちづき もか	神奈川県山岳連盟	7位
女子			
Under 17			
中村 まりん	なかむら まりん	茨城県山岳連盟	1位
松浦 朱希	まつうら あかね	東京都山岳連盟	2位
狩野 凪	かりの なぎ	浜松学芸高等学校	5位
齋藤 紗里依	さいとう さりい	栃木県山岳・スポーツクライミング連盟	10位

かった反省を活かし、アジアユースで積極的な攻めた登りを意識して、結果として現れたのはとても自信が持てました。

来年の目標は今年達成できなかった世界ユースでの優勝です。また来年からジャパンカップに出れる年齢になるので初年度から日本代表になることを目標に、より一層レベルアップした姿で出場できるように練習頑張ります。

◆船木 陽 (U19男子リード優勝)

ユースとして出られる最後の大会ということで、いつも以上に気合いが入っていたので、悔いなく終われてすごくうれしかったです。

これからはシニアの大会に参戦することになるので、今まで以上にトレーニングを積んで、日本代表になれるように頑張りたいです。

◆齋木 猛斗 (U17男子ボルダー・リード優勝)

初めて公式戦で優勝できてすごく嬉しいです。努力が実って良かったです。

これからの目標は、世界ユースでリード、ボルダーで二冠することです。

リード結果			
氏名	ふりがな	所属	順位
男子 Under 19			
船木 陽	ふなき はる	栃木県山岳・スポーツクライミング連盟	1位
長森 晴	ながもり はれる	N 高等学校	2位
西尾 洸音	にしお ひろと	兵庫県山岳連盟	3位
佐々木 玲偉	ささき れい	福島県山岳・スポーツクライミング連盟	4位
男子 Under 17			
齋木 猛斗	さいき たけと	四日市市立中部中学校	1位
古川 大智	ふるかわ だいち	福井県山岳連盟	2位
原 丈琉	はら たける	大分県山岳連盟	9位
奥畑 成	おくはた なる	奈良県山岳連盟	11位
女子 Under 19			
山 真奈実	やま まなみ	三重県山岳・スポーツクライミング連盟	2位
望月 萌叶	もちづき もか	神奈川県山岳連盟	3位
的場 朱杜	まとば ずず	千葉県立国府台高等学校	6位
柿崎 咲羽	かきざき さわ	東京都山岳連盟	7位
女子 Under 17			
中村 まりん	なかむら まりん	茨城県山岳連盟	1位
林 有沙	はやし ありさ	石川県山岳・スポーツクライミング協会	2位
村杉 汐里	むらすぎ しおり	千葉県山岳スポーツクライミング協会	5位
堀内 優里	ほりうち ゆり	静岡県山岳・スポーツクライミング連盟	7位
齋藤 紗里依	さいとう さりい	栃木県山岳・スポーツクライミング連盟	11位

スピード結果			
氏名	ふりがな	所属	順位
男子 Under 19			
大石 覇	おおいし はく	千葉県山岳・スポーツクライミング協会	2位
大西 月華	おおにし つきか	神奈川県山岳連盟	10位
上柿 銀大	うえがき ぎんた	八戸学院大学	11位
戸田 明稀	とだ めいき	愛知県山岳スポーツクライミング連盟	13位
男子 Under 17			
齋藤 蒼太	さいとう そうた	千葉県山岳・スポーツクライミング協会	3位
青木 智久	あおき ともひさ	福岡県山岳・スポーツクライミング連盟	8位
茶谷 悠成	ちゃたに ゆうせい	千葉県山岳・スポーツクライミング協会	14位
石田 観千	いしだ みゆき	福岡県山岳・スポーツクライミング連盟	16位
女子 Under 17			
原 菜都美	はら なつみ	千葉県山岳・スポーツクライミング協会	2位
西村 優杏	にしむら ゆあ	千葉県山岳・スポーツクライミング協会	11位
岡信 葵衣	おかのぶ あおい	岡山県山岳・スポーツクライミング連盟	17位
岡部 朱里	おかべ あかり	千葉県山岳・スポーツクライミング協会	19位

※順位に黄色ハイライトを入れているのがメダル獲得選手



ボルダー

リード



スピード

会場全体



エキスチェンジプログラムの集合写真

第5回ボルダーフューチャーカップ 鉾田 (BFC2025) 報告

2025年9月14日・15日、茨城県鉾田市・とくしゅくの杜スポーツライミングセンターにて、U13 (11～12歳) およびU15 (13～14歳) カテゴリーを対象とした第5回ボルダーフューチャーカップが開催されました。世界的な年齢カテゴリー移行の流れを受けた新カテゴリーのもとで実施され、次世代を担う選手たちが自らの力を試す貴重な大会となりました。

本大会では、課題の番号順に難易度を設定しない新しい方式が導入され、選手たちは8本の課題の難易度や特徴を見極め、自身の得意・不得意を踏まえながら登る順番や登り方、ペースを工夫するなど、それぞれが主体的に「自分で考えて登る」姿が多く見られたことが印象的でした。

また、今年度からの年齢カテゴリー移行を受け、強化委員会では新たな方針として、U15 カテゴリーの選手を11月1日から4日にインド・プネーで開催されるアジアキッズ選手権へ派遣する取り組みを開始し

ました。この方針は、フューチャーカップ発足当初の想いを受け継ぎながら発展してきたものであり、結果だけを追うのではなく、長期的な視点で競技に向き合い、学びを重ねながら成長していける選手の育成を重視するという点に変わりはありません。

今後は、国内にとどまらず、国際大会での挑戦や異文化との交流を通じて、競技力と人間的成長の両面をともに高めていくことを目指しています。

さいごに

7月から9月にかけてのユース関連活動では、選手たちがそれぞれの場で多くの経験と学びを重ね、大きく成長することができました。日頃より支えてくださっている保護者の皆さまをはじめ、関係者の皆さまに心より感謝申し上げます。

今後は、強化方針のもと、ユースとシニアの合同合宿などを定期的に行い、ユース選手がトップレベルの環境に触れることで、自身の課題を見つめ直し、次の成長へとつなげていけるよう取り組んでいきます。今後とも、次世代を担うクライマーたちの挑戦を、温かく見守り、応援していただくと幸いです。



寄贈図書

三峰山岳会	「岩つばめ」376号	会報	(株) ネイチュアエンタープライズ	「岳人」10月号 No.940	寄贈本
(公社) 日本山岳会	「山」8月号 No.963	会報	兵庫県山岳連盟	「兵庫山岳」第699号	会報
(株) 日本運動具新聞社	「スポーツ産業新報」第2480号、第2481号、第2482号	新聞	Corean Alpine Club	「산 (山)」2025年8月号 Vol.292号	会報
(公社) 健康・体力づくり事業財団	「健康づくり」No.569	会報	おいらく山岳会	「山行手帖」No. 790	会報
日本トレーニング指導者協会	「JATI EXPRESS」Vol.108	会報	新潟県山岳協会	「新山協ニュース」第380号	会報
(一財) 日本防火・防災協会	「地域防災」(2025-8 No.63)	情報誌	(公社) 日本山岳会東海支部	「インド・ヒマラヤ」(日本語版、英語版)	寄贈本
(株) 山と溪谷社	『絶景低山コースガイド関東周辺』	寄贈本			

Enjoy Climbing!

Enjoy Alpine Climbing! 連載⑦

—— アルパインクライマーとしての成長 ——

鈴木 雄大

いよいよアタック開始。4日半分の食糧と少しのギアを持って、最初の雪壁を駆け上がる。花崗岩の基部からプロテクションを取りつつ、同時登攀の長い2ピッチ、ロープの長さでおおよそ8ピッチ分くらいだろうか。良いペースで実際の険しいクライミングが始まるベースへ辿り着いた。出だしから溶けかけの怪しい氷。幅30センチほどのベルグラと凹角を頼りに、僕は何とか登った。設置したトラйкаムを足元になると、ロープの揺れで外れていくようなフレアした脆いクラックしかなかった。M4+R程度だろうか。砦のように塞がれていたかと思われた岩壁も、なんとか弱点が続いている。だが、その次の重要なピッチも、氷がシャワーのように溶けていて、困難を極めた。幸いなことに、氷のとなりにクラックがあり、ドライツーリングとジャミングを使って何とか這い上がる。クラックに雪と氷が詰まるM7のピッチだ。成田啓も僕も日本でM11+まで登っているが、確かにこれは悪かった。標高もすでに5600mを超えているだろうか。持っていた最大のキャメロットである#3よりもクラックは広がり、フリークライミングで抜けるしかないが、よく頑張った。そこから全スタカットクライミングのピッチが続き、西田の2ピッチも印象的だった。90度の積み木のようなロックピッチを2つ、最後の少しオーバーハングした抜け口では溶けた薄氷のマントルをこなす。この最後の5メートルだけは、重い荷物のフォローは時間がかかりそうなので、荷揚げを行った。その次のピッチで蜘蛛の糸と呼んでいた上部の大きなベルグラが見渡せるスノーバンドまで出る。日も沈みそうなので、大きなボルダーに守られた2メートル程のスペースをスノーハンモック(just a tent float sheet)で拡張し、bivy1とした。5810mまで登り、フラットなビバークサイトも見えてきたので、今日は良い調子だ。最初の8ピッチ程の同時登攀を含んで、15ピッチ分程伸ばすことができた。

2日目、まずはスノーバンドセクションをロープの長さで3ピッチ程の同時登攀で駆け上がり、氷とミックスの傾斜の強いルンゼに吸い込まれる。ここでスタカットに切り替えるが、まだ朝なので氷も硬く、素晴らしいクライミングで高度を稼ぐ。毎回ロープ一杯60m近くまで、7ピッチほど、途中ハンギングビレイなども交える強い傾斜のクローワール地形を登って行く。一部氷も雪もない酷く脆い垂直の部分が出てきたが、幸いとても狭い形状となっていたので、素手になってチムニー登りで突破する事ができた。チムニーにさし掛かる前に打ち込んだピトンは簡単に抜

1日目、スカスカのアイス諦め、氷の詰まったクラックで厳しいムーブをこなす成田啓・写真＝鈴木雄大



5810mにて、テントのフロアシートに雪を詰めてビバーク1写真＝成田啓

けるくらい脆かったので、5.8～9程度のワイドを慎重にフリークライミングすることが求められた。圧倒的な迫力で聳えるヘッドウォールの中に、奇跡的に存在する唯一の弱点は、僕らを高みに導いてくれた。最後はかなり脆い岩を、斜めの小リッジのようなスペースに這い上がった。高度障害の影響や疲労の蓄積もあり、このチャンスを逃すまいと、ここをビバーク地にした。スノーハンモックで1人分のスペースを追加で拡張して夕暮れと同時にビバーク2。頭や足は宙に浮いているものの、6250m地点で横になって休めたのは明日に向けての希望が大きく膨らんだ。ここまで合計25ピッチくらいか。

3日目、今日はあと300mだけだ。「荷物を全て置いて山頂を踏んで帰ってくるか」なんて話もあったが、傾斜が更に強まりそうなのと、この先がどうなってるか全く分からないので、全て背負って出発。これが結果的には良い判断であった。今日は成田からスタート。いつも通り2ピッチ交代でのクライミング。1ピッチ目、嫌らしい10mのダウンクライムしながらのトラバースをこなす。そして2ピッチ目、凹角に薄く張り付いたベルグラを登るまさにミックスクライミングというピッチ。氷からのプロテクションは非常に乏しいが、側壁から小さなカムがとれる。僕はフォローだったが、上部の氷が途切れたところで、アックスを横にスポッと入れるトルキングが印象的なムーブだった。M6程度だ。成田啓は「6300mでトルキングをするなんて夢のようだ」と言っていた。

3ピッチ目、少し雪壁を登ると左右に進路が取れそうだったが、左に行くとそのままクローワールの雪壁に合流できそうで、ルートとしては味気ないものになりそうだったので、敢えて右の垂壁を覗いてみる。すると一見登れそうもない大岩壁のスラブの海に見えたが、奇跡的に硬く上質なガバが繋がっている。岩質はこれ以上ないほど素晴らしい。西田がドライツーリングで超えて行く。もう6300mを超え、垂直の動きは一手一手息が切れ、頭が痛い。

てっぺんの向こうに あなたがいる

本年10月31日(金)、田部井淳子さんファミリーを描いた映画『てっぺんの向こうにあなたがいる』が公開されます。50年前の1975(昭和50)年5月、世界で初めて女性として世界最高峰のエベレスト登頂を果たし、世界中にその名を知らしめたあの田部井さんです。10月20日で亡くなって9年になります。「登山」は大きな主題ですが「登山の映画」ではありません。

田部井さんの人生を変えたこの快挙は、国連が制定した「国際婦人年」と重なったことでさらに評価や話題の輪を大きくしました。世界的ヒロイン「ジュンコ・タベイ」の名前は男女平等や女性の社会進出などの時代背景の象徴の一つとして、世界中を独り歩きましたのです。

ご本人も最初はさぞや戸惑ったでしょうし、当時の田部井さんには重荷でもあったと思いますが、大きな飛躍、活動を広げるチャンス、ステップになったのではないのでしょうか。登山界も男社会でした。そんな中での掴んだ栄誉「世界初」の自身の立場の大変さも認識せざるを得なくなったのです。

ご主人の政伸さんは群馬県前橋市出身のホンダ山岳部の精鋭クライマーでした。内助の功を果たします。田部井夫妻のなれそめも谷川岳の一ノ倉沢でした。映画では、有名人の子として生まれてしまったがゆえの息子・真太郎(演:若葉竜也)の苦悩も反抗も描かれます。その息子・田部井進也さんも長ずるに及び家族のきずなを取り戻し、母亡きあともその意志を受け継ぎ、今や、東日本大震災の復興を担う若者を元気づけるために田部井淳子さんが始めた「東北の高校生の富士登山」プロジェクトのリーダーを担っています。



俳優陣は豪華です。主人公・多部純子役は吉永小百合。今作が124作目の出演作です。青年期の純子役は、のん。夫の正明役は佐藤浩市。読売記者だった北山悦子役は天海祐希。阪本順治監督は「こんな殺伐とした世の中だが、老若男女元気になれる映画になったと自負している」と語ります。

吉永さんは大決心をしてピアスを開けたそうです。吉永さんも役にない、生まれて初めてピアスを開けると、解放されたような気持ちにはなったようですが、ピアスを開けると1カ月間は泳いではいけないとお医者さんに言われたのは辛かった、とのエピソードも。撮影は実際の山にこだわり、富士山、日和田山、御霊櫃峠、立山室堂でロケを敢行。

谷川岳山岳資料館所蔵の登攀具、装備類もたくさんお貸しし、昨年11月の雪の立山での撮影にも同行し、多少のアドバイスもさせていただきました。

立山では10年前の映画「神々の山嶺」の撮影でもネパールで一緒だったカンチャ・シェルパさん、今は日本で結婚し働いていますが、「シェルパ役」で出演していて旧交を温めました。教師の奥さんは今年の12月に冬休みを利用してカトマンズに來られ、そこでもエベレスト・トレッキングから帰った私を訪ねてくれました。映画『てっぺんの向こうにあなたがいる』は山好きでなくとも楽しめます。ぜひともご覧ください。

八木原図明

(公益社団法人日本山岳・スポーツライミング協会顧問)



[写真提供] © 2025「てっぺんの向こうにあなたがいる」製作委員会

10月31日(金)全国公開

吉永小百合
のん

木村文乃 若葉竜也/工藤阿須加/茅島みずき 和田光沙
円井わん 安藤輪子 中井千聖/長内映里香
三浦誠己 金井勇太 カトウシンスケ 森 優作/濱田マリ 浅見小四郎

天海祐希/佐藤浩市

監督:阪本順治

脚本:坂口理子 音楽:安川午朗

原案:田部井淳子「人生、山あり“時々”谷あり」(潮出版社)

製作総指揮:木下直哉

山形県山岳連盟自然保護委員会のSDGsな活動

今年の9月に山形県小国町でJIMSCAの自然保護指導員の研修会を開催するにあたり確認したところ、山形県内の自然保護指導員の有資格者は一人のみとのことでした。このことからわかるとおり、県岳連の自然保護委員会は活動休止状態でした。ただ登山道保全に関しては、飯豊連峰保全連絡会と朝日連峰保全協議会の二つの組織(どちらも環境省羽黒自然保護官事務所が事務局)が長年にわたり活動を行い、県岳連に加盟している地元の山岳会が主体的に関わってきました。

筆者は1980年代後半のブナ伐採反対運動に関わったり、チョウ類の保護活動をしてきた経験から、最近県岳連の自然保護委員長に任命頂きました。そこでまず取り組んだのが巨大風車群の建設問題でした。山形、福島県境の栗子山などの奥羽山脈稜線に、JR東日本エネルギー開発が計画を進めていたものですが、イヌワシの生息圏について環境アセスメントの改ざんが発覚し、地元米沢に風車問題を考える市民の会が発足、計画撤回を求める署名活動を行っていました。アセスメントには春の女神、ヒメギフチョウもリストアップされていたので、小国山岳会の有志で昨年春に食草であるトウゴクサイシンの分布調査を行い、作業道周辺での良好な生育を確認しました。また、県岳連として傘下の各団体に署名用紙を送付して、広く計画撤回の署名をよびかけました。そしてついに、2024年9月24日、JR東日本は採算が合わないなどとして計画を撤回しました。

筆者は三つの主脈が交差して飯豊連峰の中心部に位置する御西小屋の管理人を夏の間務めています。万年雪と言われていた雪田や雪溪がすべて消えることが多くなり、稜線ではニホンジカやイノシシも目撃されるようになり、温暖化の影響を感じていました。2年前、宮城県加美町で宮城県山岳連盟が開いたネイチャーポ

ジティブに関する集会に参加しましたが、北海道大学地球環境科学研究所の工藤岳博士の大雪山での急速な植生の変化などのお話を伺い、衝撃を受けました。環境省のモニタリング1000(以下「モニ1000」)のサイトとして大雪山では気象データが蓄積されていて、温暖化がどれほど進行しているのかが把握されています。しかし日本での高山生態系のモニタリングは本州ではアルプスなどに限られ、東北地方では皆無でした。そこで昨年、北海道大学や国立環境研究所などのチームが科学技術振興機構からの支援で、モニ1000に準じた調査を東北で初めて早池峰山で開始しました。飯豊連峰も候補に上がりましたが、10年間継続となるような地元の体制が問われることになります。そこでまずそのような計画があることを県岳連の総会で説明し、広く協力をよびかけました。そして主体的に関わる団体を、正会員が全員小国山岳会である飯豊朝日を愛する会、及び機材設置予定場所を管理している飯豊AGCの二つのNPOが担うこととし、環境省等の設置許可を得て無事今年から通年観測する気象ステーションと無積雪期だけの4台のアニマルセンサーが設置されました。マルハナバチやチョウ類のトランセクト調査(*)も開始しましたが、県岳連傘下の小国山岳会と長井山岳会のメンバーで勉強しながら10年間継続していく計画です。冒頭で触れた今年9月に小国町の飯豊連峰で行われたJIMSCAの講習会には山形県内からだけで3団体から10人のメンバーが参加しました。まずは全員が自然保護指導員となり、さまざまな課題にチームとして取り組んでいく覚悟です。

*トランセクト調査：特定のラインに沿って生物の分布や個体数を評価する調査方法

(山形県山岳連盟自然保護委員長 草刈広一)



◀飯豊山の風衝地に設置された気象観測ステーション



▶マルハナバチ類のトランセクト調査も始まる(飯豊稜線での優占種のオオマルハナバチとヒメマルハナバチ)



◀9月14日に飯豊、梶川尾根で行われた実地研修(着工前)



▶ブナの枯れ枝やヤシ土のうによる近自然工法で施工。束ねた柴が暗渠のため敷かれている



2章 レジャー白書から見た登山活動（登山人口推定）

レジャー白書は、1979年より15歳以上男女約3000人を対象に、アンケートの訪問留置法で調査し、その後、2009年よりインターネット調査に切り替わった。

登山人口の推定には、主に、ここでの調査結果が使用される。

なお、レジャー白書は10月に発刊されるため、ここで報告する「2024発刊」は、2023年データとなる。

●登山人口の推定

推定登山人口は、図4に示すように、2023年で480万人であった。コロナで低下して以来、回復せず450～500万人で推移している。「にっぽん百低山」で少しブームの傾向が指摘されるが、新たに登山者数を増やす段階にまで至っていない。



図4 レジャー白書から見た登山人口の推定

この傾向は、白書の「余暇活動の参加率の上位10表」において、以前、必ず登場していた「登山」項目が無くなったことから、一般の人々の登山への関心が薄まったことが分かる。

白書によれば、年間平均活動回数は6.7回、年間平均活動経費35700円、1回あたり5330円、用具代14800円、会費21000円であった。

3章 2024年 警察庁の事故データ分析結果

本データは、毎年6月に公表される警察庁の事故統計を基に、再分析後・データ加工したものである。なお、警察庁では2024年1月から12月までの調査結果としている。

1. 2024年山岳遭難事故の傾向

2024年の山岳遭難事故は、遭難者総数で、前年度より

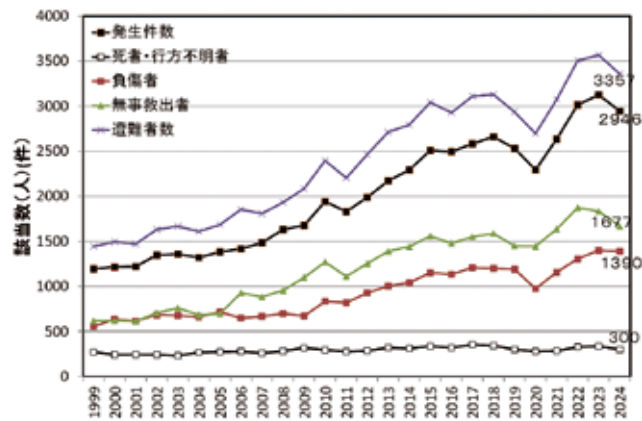


図5 2024年の山岳遭難事故発生状況

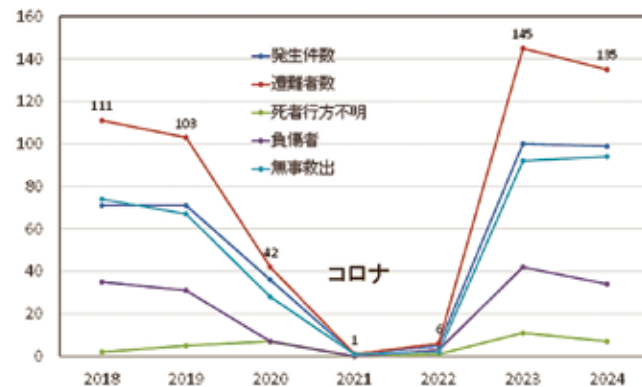


図6 訪日外国人の事故経年変化

211人減少し、遭難件数で180件減少した(図5)。その結果、遭難者数3357人、遭難発生件数2946件となったが、依然高止まりの傾向が続いている。

登山団塊世代(S15-30)の多くが後期高齢者世代に入るにつれ、予想されてきた「高齢登山者の減少」による事故者の減少が始まったかどうか、100低山ブームもあるため、様子を見守っていきたい。

2023年での、訪日外国人の事故の急増は大きな問題となったが2024年(図6)においても変わらず、発生件数99件(23年;100件)、遭難者総数135人(23年;145人)と僅かに減少しているものの変化はない。

世界的な登山への関心は非常に高い。

図7はMarket.USに掲載された世界の山岳観光での主な活動統計である。登山活動への人気が自然観光と肩を並べ

Leading Activities Related to Mountain Tourism Worldwide

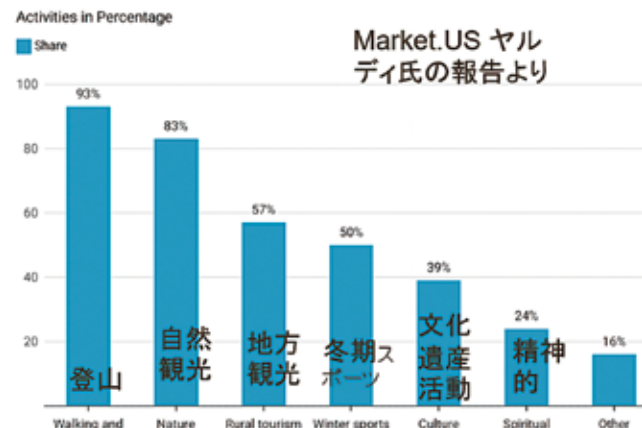


図7 世界の山岳観光への主な活動

るほど人気があることが分かる。今後とも、訪日外国人の登山への関心は高く、事故発生も継続すると考えられる。

2. 事故者の年齢分布

図8より、山岳事故者の年齢分布は前年度同様、70歳台(23%)をピークに60歳以上が半数を占めた。典型的な事故者の高齢化傾向は変わらない。(参照JMCA 会員の年齢分布図1)

また、事故者の世代別経年変化(1991-2024)を図9に示す。ピークの70歳代は23%付近で一定を保ち、漸増してきた80歳代の割合は微増する。注目される50歳世代は2015年で底入れして以来、増加傾向を示し、低下し続けている60歳世代と同じ割合となった。

事故者の世代分布の今後を予想する上で、やがて減少に転じると予想される70歳世代の変化が最も重要なKeyとなっているが、当面、1章で指摘したように、その穴を埋める世代として50歳世代の動向が注目される。



図8 事故者の年齢分布

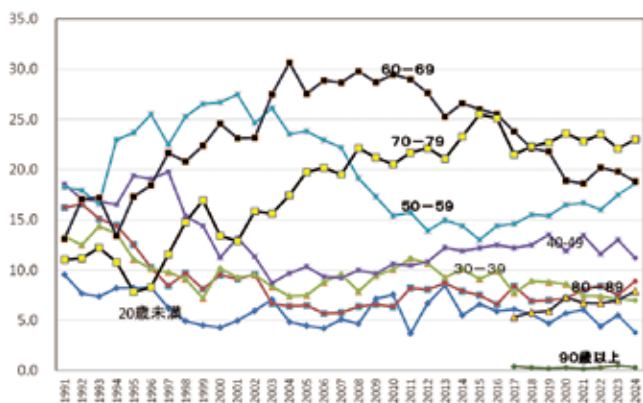


図9 各世代別経年変化(1991-2024)

3. 死者・行方不明者の世代別経年変化 (2014～2024)

死者・行方不明者の世代別変化(図10)を2014年～2024年で見ると、70歳代が高止まりし、30歳代、50歳代、80歳代が増加している。注目される50歳代(矢印)は急増し、2024年で60歳代を上まり第2位にまで増加してきた。

事故者の各世代における死亡・行方不明者の割合は図11に示すように概ね線形性を示す。線形解析では1世代(10年)おきに約2.5%死亡率が上昇する。つまり、20歳代で2%であれば80歳代では事故時の疾患や傷害により20%まで上がることになる。

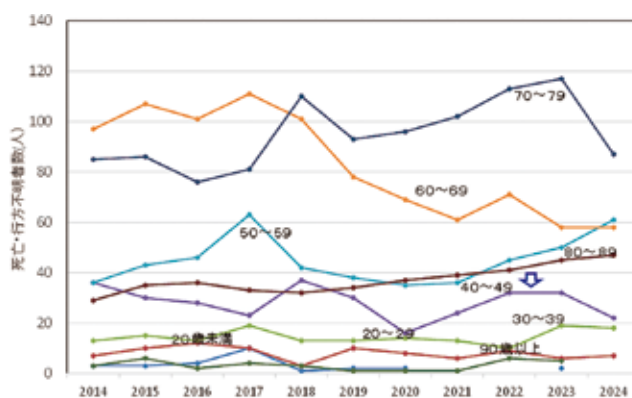


図10 死亡・行方不明者11年間経年変化



図11 年齢が高まるにつれ増加する死亡・行方不明者の割合

4. 登山目的別遭難者

2024年の「登山系」での事故は、前年度(2761人)より減り2676人、また、非登山系も減少し、681人(前年807)となった(表2)。なお、過去20年間での登山系と非登山系の事故割合は、2005年で70:30、2024年で80:20となり、登山目的での事故割合が漸増し続けている。

その背景には、2010年以前では20%を越えていた非登山系の「山菜採り」が山菜利用文化の衰退の影響を受け、2020年頃より少しずつ減少しており、道迷い事故数の減少の一因となっている。なお、他の項目は経年的に変化が小さい。

5. 登山事故態様(原因)

2024年における事故態様を図12に示す。図より明らかに、「道迷い」が毎年変わらず30.4%(1021件)と突出している。しかし、全態様項目に占める「道迷い」数は2021年から減少の傾向を示し、特に2024年において、前年度から183人減少した。

既述のように、「事故者総数」の減少が211人であり、道迷いの多い「無事救出数」の減少166人を考慮すれば、道迷い数の減少の影響が遭難者数の減少に大きく影響していることが分かる。

なお、「道迷い」以外に多くの態様項目では対前年度比の変化は少ないが、変化が見られたのは前年度より転倒が67人増加し、病気が52人減少した。

表2 登山目的		
登山系	2766	目的 該当数
		登山 2267
		ハイキング 222
		スキー登山 87
非登山系	681	沢登り 62
		岩登り 38
		山菜採り 296
		渓流つり 35
		作業 46
		観光 54
		写真撮影 18
		山岳信仰 25
		自然観察 23
		狩猟 10
		その他 174

その他(スキー、その他、不明)

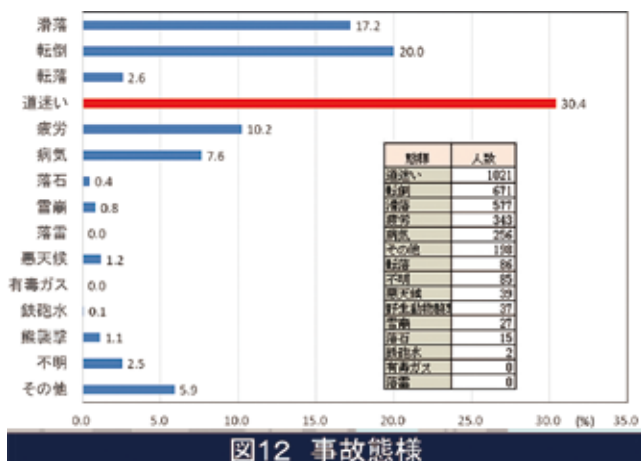


図12 事故態様

6. 県別事故発生状況と事故の傾向

県別登山活動度を表す指標でもある事故の件数、総数、死亡・行方不明における上位10県を表3に表した。

毎年、他府県のほぼ倍に近い事故が発生する長野県をトップに、他の9県の順位は多少入れ替わりが見られるが、大きな変化はなかった。

全国警察の活動状況を見るため「無事救出」－「負傷者」－「死亡・不明」の三者割合の経年変化を図13に三角グラフで表した。三者の経年的な関係は、全体としては死者が減り、安全側に推移してきたが、2020年過ぎより、負傷者割合が増加してきている。この原因には、道迷い事故の減少と深刻な状況には至らない負傷者割合の増加によると考えている。

例年のごとく、長野県の事故数が突出する。前年度、死亡者5位であった東京が半数まで減らし、上位枠から外れた。主な山岳遭難事故は中部から東側に多いが、西日本では唯一兵庫県が入っている。

表3 遭難者数、発生件数、死亡・行方不明上位10県			
2024			
県	死・行方不明	都道府県別 遭難者数	都道府県別 発生件数
1 長野県	53	1 長野県 350	1 長野県 321
2 北海道	21	2 北海道 226	2 北海道 199
3 静岡県	20	3 神奈川県 209	3 東京都 183
4 山梨県	18	4 東京都 204	4 神奈川県 183
5 群馬県	13	5 山梨県 163	5 山梨県 152
6 岐阜県	13	6 兵庫県 155	6 兵庫県 137
7 新潟県	12	7 富山県 137	7 富山県 127
8 山形県	11	8 新潟県 136	8 群馬県 121
9 兵庫県	11	9 群馬県 135	9 新潟県 114
10 福島県	9	10 静岡県 128	10 静岡県 113

●警察データに見る死亡、負傷者、無事救出の経年変化

3者の経年変化を三角グラフで表した。全体として、死亡割合が減り、無事救出が増加する安全側に推移してきた。

しかし、2020年過ぎより、無事救出の割合が減少、死亡者数も減少し、負傷者が増加している。

●47都道府県における無事救出、負傷者、死亡・行方不明者の傾向

47都道府県の山岳事故傾向は図14のように死亡・行方不明が14%より小さい範囲で、無事救出と負傷者割合がそれぞれ変化する。

無事救出が多い県はかつて、山菜採りで道の迷いが多い東北であったが、僅か1県で、最近では四国、九州に多くなっている。最近の登山形態が変わってきた。

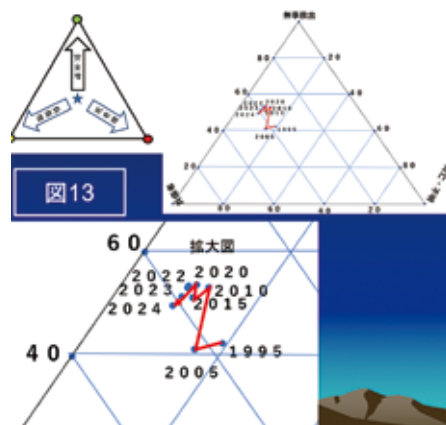


図13

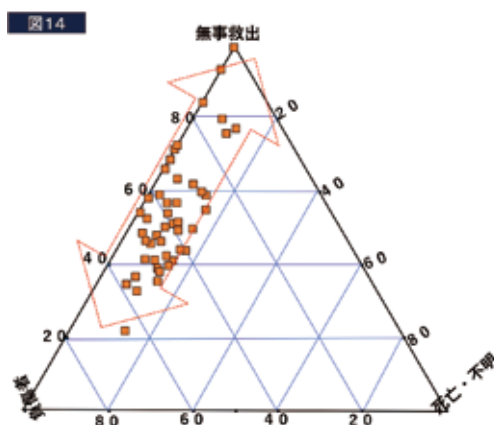


図14

次回へ続く

JMSCA

令和7年度 第7回
ハイブリッド開催定時理事会報告

日 時：令和7年9月11日(木) 13時～16時45分

場 所：JSOSビル3F 会議室5 及び Zoom

出席者：町田 幸男、石井 昭彦、原 勇人、安井 博志、藤江 理枝、廣川 健太郎、(欠)吉田 春彦、下村 真一、小高 令子、西原 斗司男、(欠)畑中 渉、中橋 沙羅、蛭田 伸一、栗田 季慎子、望月 啓治、星 一男、

野村 善弥、中島 隆之、赤尾 浩一、石田 英行、平田 伸也、古屋 寿隆、小田部 拓、武田 豊明、前田 善彦、(欠)奥井 健吾、古賀 英年[監事]、佐久間 務[監事]

理事 出席者：23名、欠席者：3名

監事 出席者：2名

1. 開会

2. 会長挨拶

初歩的な遭難事故が増えている中、JM SCAとしてどう対応していくのか、また登山・SC・組織においてどのような方向を目指しているのか、各方面からの声がある。本年は前回策定した5か年中長期計画の最後の年となっていることから振り返りと

もに、今後の中長期計画を策定する必要がある。理事の皆さんには、自分事としてとらえてほしい。

3. 議事成立状況報告

理事数 26名中 23名出席

監事数 2名中 2名出席

(定款第33条、定足数=14名(過半数以上))

4. 議長選出

会長が議長をつとめる(定款第32条)

5. 議事録署名

会長及び監事(定款第34条)

6. 議 題

議案第1号 前回理事会議事録の承認について

すでに、内容の確認は完了しており以下のとおり承認された。

棄権0名 反対0名 賛成23名
議案第2号 組織管理運営規程改定に係る答申後の対応について

望月専務理事が、登山部、SC部等の答申内容を反映させた新しい改定案を説明した。新たに委員会の下に「部会」という機関を設け、一部の委員会は部会に、これまで同じ委員会内でも全く異なる活動している場合は、その委員会内に2つの部会を設置する案などを提示した。各専門部に持ち帰り協議の上、変更、追加が必要であれば、9月30日PM5:00までに、報告することが提案され、異議なく承認された。

棄権0名 反対0名 賛成23名
議案第3号 オフィシャルサプライヤー契約について

8月定時理事会において提示した内容について、再度小田部常務理事が配布資料を基に説明し、異議なく承認された。

棄権0名 反対0名 賛成23名
議案第4号 山岳共済会と他社との提携について

8月定時理事会において提示した内容について、再度、廣川副会長、望月専務理事が説明し、異議なく承認された。

棄権1名(古賀理事) 反対0名 賛成22名
議案第5号 取引業者との覚書について

既に締結済みの基本契約の第8条支払に関する条項について、実態に沿った内容にすることを赤尾事務局長が説明し、異議なく承認された。

棄権0名 反対0名 賛成23名
議案第6号 アジアキッズ選手権大会2025 派遣選手選考基準について

選考基準の内容を栗田理事が説明し、異議なく承認された。

棄権0名 反対0名 賛成23名
議案第7号 第5回千葉カップスピード競技会の公認について

大会の概要を栗田理事が説明し、異議なく承認された。

棄権0名 反対0名 賛成23名
議案第8号 令和7年度JMCA役員研修会実施要項について

了承のうえ議事ではなく、報告とした。報告議案第8号と交換となり、望月専務理事が、資料を基に説明した。

議案第9号 IFSCクライミンググランドファイナルズ福岡2025派遣選手選考基準について

選考基準の内容を安井理事が説明し、異議なく承認された。

棄権0名 反対0名 賛成23名
議案第10号 第3回アルパインクライミング懇談会2025の開催について

催しの概要について石井理事が説明し、異議なく承認された。なお、良い内容の割に参加費が低いこと、きちんとした収支予算を立てること、当日はyou tubeでも配信予定であるとのことだが、スポンサーを付けられないか、などの意見が出された。

棄権0名 反対0名 賛成23名
議案第11号 補正予算及び資金調達状況について

赤尾事務局長が月次報告と資金状況を、望月専務理事が詳細経過と状況の補足説明をした。9,10月の資金確保のために、基本財産3,000万円の取り崩しの必要性を説明

し、以下のように異議なく承認された

棄権0名 反対0名 賛成23名
また、上記以外に、来年度末までにさらに4,000万円の資金確保が必要であることから、役員、関係団体への借入依頼をすることの提案を行った。この提案に対し、第3期基金募集に伴う現状の財政、資金状況の説明を含め、加盟団体への臨時追加説明が必要ではないかとの意見が出た。説明内容と、日程、方法について、検討することになった。補正予算については、強化委員会会計を精査中。

7.報告
報告第1号 8月末時点の主な収支及びキャッシュフローの状況

議案第11号で説明済なので割愛
報告第2号 後援名義承認申請への対応について

町田会長が、常務理事会で、以下が承認された旨伝達した。

- (1) BEMAC クライミングドリームカップ in 西条 11月8～9日
- (2) 第2回瑞牆山登山者集会 10月4日
- (3) 第33回日本山岳耐久レース(ハセツネカップ) 10月12～13日
- (4) 「山の日」フォーラム2025 とちぎ～山と健康～ 10月13日
- (5) 「山の日」フォーラム2025 ぐんま～山と健康～ 10月19日

報告第3号 海外競技団体からのJMCA招待状要請に対応するための規定づくりに係る答申及び今後の対応について

望月専務理事が答申内容とともに、今後、SC国際委員会と規定づくりを行い、改めて理事会に提案する旨を説明。

報告第4号 SKIMO日本選手権開催及びワールドカップ日本代表派遣について

小田部常務理事が説明した。
報告第5号 DX(デジタルトランスフォーメーション)の動きについて

望月専務理事が説明した。
報告第6号 理事向けの会費及び損害賠償責任保険料の徴収について

望月専務理事が説明した。
報告第7号 令和8(2026)年度共済会山岳保険の内容及び保険会社からのお詫びについて

望月専務理事が説明した。
報告第8号 令和8(2026)年度以降の全日本登山大会について

(当初報告議案だったが、審議事項へ取り扱い変更、審議第8号と交換することになった。)

石田理事が経緯を説明した。その後2026年度は、全日本登山大会を行わない提案について異議なく承認された。

棄権0名 反対0名 賛成23名
2027年度は、大阪で当大会を行うことについて異議なく承認された。

棄権0名 反対0名 賛成23名
当大会の長期的な開催方針は、別途普及委員会で継続審議することになった。

報告第9号 国スポート壁4ルート化問題の対応について

望月専務理事が現状を説明した。
報告第10号 JMCAフレンドで扱う資格証について

蛭田理事が、資料の補足説明をした。

報告第11号 SCコーチ1(岩手会場)検定結果の承認について

常務理事会で承認された結果の報告。
報告第12号 スポーツコーチ資格終了証(JMSCA発行)の紙ベース送付の廃止について

廣川副会長が調整することとした。
報告第13号 公益団体の認定に必要な外部理事・監事について

外部理事ゼロ、外部監事は佐久間監事ということで報告予定。
報告第14号 10月16日JPSO・JOC等による加盟団体研修について

締め切りまでに参加者希望者は事務局に連絡する。

報告第15号 滋賀国スポ組み合わせ抽選会の実施結果について

HPで広報済
報告第16号 港区との連携普及事業の報告

藤江理事が経緯と状況の説明をした。

報告第17号 2026年新春懇談会の実施方法について

1/10に実施、参与会、午後の新春懇談会の内容は例年と同じ。

1/10AMの内容と、1/11の指導者研修委員会引継ぎ等は見直し予定。

報告第18号 スポーツクライミング競技会ビレイヤー研修会について

報告第19号 助成金等実態調査の実施について(2件)

望月専務理事が、状況を説明した。
報告第20号 基金拠出者への定期報告について

望月専務理事が今後の予定を説明した。
報告第21号 会員・役員名簿の制作について

望月専務理事が今後の予定を説明した。9月中にPDF版を送付したい。

報告第23号 会長がJPCAとの覚書(配布済資料参照)締結した旨説明した。

報告第22号 今後の役員派遣ほか渉外等について(9月～11月)

○9月13～14日 第5回ボルダーフューチャーカップ鉾田(BFC2025)

○10月3～5日 第79回滋賀国スポ(会長、畑中副会長)

○10月11日 Jr.クライミング体験会2025 in ロクボク

○10月11～13日 安全登山指導者研修会 東部地区:岐阜県(野村理事)

○10月25～27日 全日本登山大会兵庫大会(町田会長、廣川副会長)

○11月7～9日 安全登山指導者研修会 西部地区:宮崎県(廣川副会長、石田理事)

その他 映画「てっぺんの向こうにあなたがいる」を月報に掲載予定

8.各委員会議事録について

BOXの運用を開始したので、今後、ファイルの収納について望月専務理事が指示をする。

9.その他

石田理事が提出した「第3期基金に付いての近畿地区岳連よりの申し入れ」についての状況確認を行った。

以上
令和7年9月11日 赤尾浩一

SDGsで、未来をつなぐ

三井住友海上は、安心と安全の提供を通じて、持続可能な社会の実現に取り組めます



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGs (Sustainable Development Goals) とは

2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に掲げられた包括的で持続可能な社会の構築を目指す「持続可能な開発目標」のことです。

持続可能な地球環境		安心して暮らせる社会		活力のある経済活動	
関連する主なSDGs	主な取組	関連する主なSDGs	主な取組	関連する主なSDGs	主な取組
12, 13, 14, 15, 16, 17	- 再生可能エネルギーの普及支援 - 自然災害リスクモデルにもとづくコンサルティング	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17	- 健康づくりの支援 - 先進技術を活用した利便性の高いお客さま対応	7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17	- 次世代モビリティ社会への対応（自動運転車等） - 災害に強いまちづくりの支援

立ちどまらない保険。

MS&AD

三井住友海上

三井住友海上は、レジリエントでサステナブルな社会※をめざします。

※外部環境にしなやかに対応する、持続可能な社会



日山協山岳共済会のご案内

**安全登山は登山者の努め、
山岳保険は義務。**

ご自身のために、ご家族のために。

日山協山岳共済会とは、

日山協山岳共済会とは公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会(JMSCA)とアライアンスを組み、安全登山の指導・普及を図り、山や自然が好きな人たちのための互助と自立を目指す仲間の集まりです。山岳共済会は、日本の山岳遭難・捜索保険の草分けで、5万人の会員を持つ最大級の山岳共済です。年齢・既往症に関係なくどなたでも入会できます。

2024年 山岳遭難の概況

警察庁生活安全局生活安全企画課
(2025年6月19日)

発生件数	2,946 件 (前年対比 180件減)
遭難者数	3,357 人 (前年対比 221人減)
死者・行方不明者	300 人 (前年対比 35人減)



2025年版

日山協山岳共済会のしおり

WEBからもお申込みいただけます (www.sangakukyousai.jp)

